

但馬考

四

農務省  
和書圖  
第九號  
共九冊

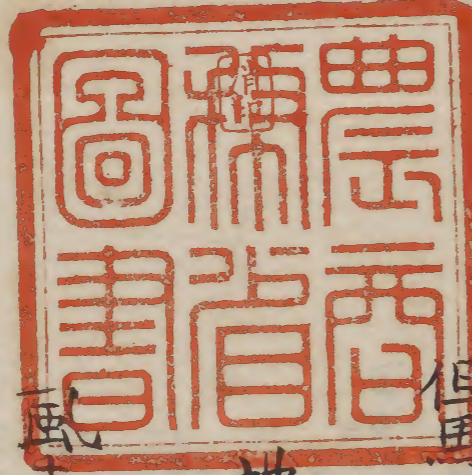
大政官文庫  
和書門  
一三二  
三〇二  
九冊架類

內閣文庫  
和書類  
二三二  
七五七  
七冊架類

一七〇号  
共九冊

內閣文庫	
番號	和 11382
冊數	9 ( 4 )
函號	175 107





但馬考卷之四

地理考

養父郡

風土記曰古老傳ハフ此地往昔民家ナラシテ竹藪ノ多故ニ藪ト云  
今養父ト云其訛リ此郡民家鏡テ竹木多シ

倭名鈔ニ載ル郷十

糸井石永養父輕部大屋三方遠屋艱者浅間遠佐  
以上十郷村数百ナリ高二万六千七百七十五石二斗七升五合

神名帳曰養父郡ニ座大三座小二十七座

出石城臣櫻良翰輯

夜夫坐神社五座名神大三座小三座

守留波神社 水谷社名神大 浅間神社 屋岡神社

伊久刀神社 楯縫神社 兵主神社 男坂神社

佐伎都比古阿流知命神座二座

井上神社二座 手谷神社 坂蓋神社 保奈麻神社

葛神社 大與比神社 桐原神社 盈岡神社

更祚村大兵主神社 御井神社 名草神社 杜内神社

和奈美神社 夜伎村坐山神社

日下部系四考山孝徳天皇弟ノ皇子表米異賊退治勤功  
ニヨリテ難波朝廷養父郡大領トシ其嫡子都牟自ト至ノ

同朝廷癸巳小領ニ任レ後岡本ノ朝己未大領ニ轉任ス飛鳥

ノ朝ニイタル在任卅一年癸未ニ死ス子三人アリ其後アラハル又次男

荒嶋ノ末葉ニ從八位上利貫ト云モノ平安朝廷寛平五年癸

未小領ニ任レ延喜十二年壬申大領ニ轉任ス又但馬大目蕃在

子親恭ト云モノ寛弘八年二月十九日養父郡ノ貫首トナル

類聚国史曰嵯峨天皇弘仁四年春正月十七日但馬国養父郡ヲシテ郡司

子妹十六已上二十已下容貌端正ニ采女トスニ堪タル者各一ノ貢セ云

按ニ凡土記ニ郷十所里五所神社三所トアリ然レ其載ル所ノ

郷ヲ見ハミナ今ノ村ナリ里ト別ツコトナシ且神社如キハ或考

スキアルハ此書強疑フコト別ニ真ノ凡土記トイフモノモナケレ

八正支ヲ得スルニ引用ヘリ

糸井郷

弘安太田文曰法勝寺領糸井庄七十四町二反三百歩領家押小路中  
納言家公文小谷太郎家茂御家人惣追捕使善法橋采能  
朝日竹田和田市場高生田寺内林垣室尾  
室尾弘安太田文曰八幡領室尾別宮二十町二反

下司室強即入道願蓮御家人

當山八朝未兼父二郡境ニテリ往古八幡宮ヲ勸請セリ社僧  
アリテ祭祀ヲ司ル法宝寺正服寺七宝寺コレヲ三職ト号ス中  
古以來專ラ佛事ニテ執行ヒ薬師如來ヲ本尊トシ八幡宮

ヲハタ鎮守ト称ス戦国ノ間ニ社領ヲ失ヘリ天正五年十月九  
日豊美岡朝来ヲ征伐シテヨニ来リモテ制札ヲ賜テ今ニテリ所  
謂ニ職ノ中法宝寺此山ヲ守リテ存在ス七宝寺高生田ニ有  
正服寺朝来郡東河谷岡田村ニアリ今ハ亡ヒテリ往古十三防ア  
リシヨシ其名社内ニノコリ

高生田七宝寺是上ニ舉ル室尾ニ職ノ一ニテ往古ヨリコニアリ  
日下部系凶ニ湛勝ト云モノ寺ニ住持セシヨシ見エ又其兄ニ  
聖伴ト云僧ノ系丹三昧堂ノ別當トナルト云コト同シカラネ  
尊千手觀音但馬順礼第十五番也此外林垣延命寺十三番  
竹内徳林寺十四番也

石永郷

弘安太田文ニ分テ上下兩庄トス石永上郷七拾町ニ及百七拾步  
地頭土田六郎兵衛尉則直跡

己今ノ土田郷也村數四

土田 寺谷 東谷 平野

土田 凡土記曰蕎麥梧桐蜀椒等シ出ス公穀百廿九假粟二十九

河合方道記曰此辺數里ノ間畑ニ桑ヲ植テ利ト云蚕ヲ飼ノ料也シ丹

後但馬ノ兩國等ヲ絹ヲ織テ業トスル故也

此処ニ東見寺トアリ本尊聖觀音但馬順礼記ニ飯田トカキ

ニ謬ナリトシハ下讀支本紀ヨリモ見ヘクノ音ハ子假名ト

通スルニ六畝ヲ土田ト云又エラモテトヨムモ古訓ナリ故ニ氣多ニ玉割ト云有

平野 凡土記曰木綿麻脩竹梧桐ヲ出ス

基垣 太田文曰基垣村地頭職 土田六郎時春御家人

藤和谷 太田文曰藤和谷地頭職

右ニ村今何レノ地ナルヤ未考

院御領石永下<sup>庄</sup>世一町一及百步内中分 領家左馬權頭重清

地頭角折太郎入道妙蓮跡

己今ノ石永庄ト稱スル地村數七

高瀬 官内 岡 法道寺 高田 堀畑

石永村 地頭角折太郎入道佃佛子息四郎国綱

木谷村 地頭角折五郎入道行佛

右ノ二村其地ヲシラス此郷ヲ石糸トナツケモ村ヨリテノ古ノ古  
アラハクハ祭ルヘシ角折カ戦功ノ註文并ニ感状等數通今出石  
真覺寺ニ残り建武前後ノ人ト見エ然レ其家系未考

高瀬村 地頭角折太郎真綱女子

以上三村弘安大田文見エ今何ノ地ナルヤ未考

高田 太田文曰穀倉院領高田庄三町三反百四十分領家吏長

者 地頭萩野三郎頼定

弘安ノ比ニ村モ別ニ庄トナリシト見エ

河合道記曰宵田ヨリ四里余馬驛ナリ宵田ノ馬ヲ爰ニテ繼

ナリ町ナリ能宿ナリ養父市場ヨリ一里許アリ

此村仲山寺噴礼十番也岡村観音寺モ十番札所アリヤル古ノ古ニ  
別ニアケス

堀島村長範屋敷ト云外アリ熊坂長範ヨニ住ケルトナシ謠云越前  
国ノ人トテト彼大盗ナハ諸国ヲ横行セシトナシ其水ヲ飲モハ必盜  
ヲ生ス馬午ニハハ性惡クナルト云傳テ今ニ飲ム人ナシ中華ニ貪泉ト云  
水アリニモカクイニ傳ヘタリシヲ吳隱之トイフモノ詩ヲ作テモラ飲ム  
ト盜モ生ヤサリトナシ其詩ハ古文前集ニアリ冬飲ムニヨルナリ

養父郷

村数七

市場 鉄屋米地 口米地 中米地 奥米地 大藪 藪崎

此御古代社名ヲ稱ス故ニ庄トイハス弘安ノ太田文下ニク

養父神社 延喜式曰夜夫坐神社名神大二坐小三座

三代実録曰清和天皇貞觀十一年三月廿二日但馬國從五位上兼  
父神ニ正五位下ヲ授ク

同十六年三月十日但馬國正五位下兼父神ニ正五位上ヲ授ク

弘安太田文曰當國三宮水谷大社六拾九町三反領家関

東御分 預所地頭神主水谷左衛門大夫清有

此外社田諸処ニ散在セリ多キ故略之

當社中古天災ニカリテ古記モ失ス故ニ詳ナル莫シカタレ所謂五

座八上社大己貴尊中社倉稻菟尊少彦名命下社谿羽道  
主命船穗足屋以上五座ナリトイヒ傳フ又弘安以来コレヲ養茶  
谷大明神ト云然氏式ヲ考ヘ水谷神社モトモニ名神大社也今奥  
米地村ニ坐ス夜夫ニ坐ス神社ト各別ナリ若ハ謬テ混スルカ或神秘  
ニヨルカ不審別宮ニ座未社ニ座アリ未社内山ノ神社ヲ俗ニ狼  
宮ト稱ス麋鹿ノ田畝ヲ害スル時コレヲ祈ル如地屋殿ハ猫宮ト云  
鼠ノ蚕ヲ害スルモコレヲ防クノ外表米宮アリ朝倉高濑カ鞆建ル  
也其更人物考ニ具ス

市場 凡土記曰麻桑良材ヲ出ス公穀百九假粟四十九

按ニ上古ハ一郷ニ市場アリ四民ヨリ會集シテ諸物ヲ交易ス

ル也又一日市七日市類ハ毎月其日ヲ定メテ市ヲナス也然ハ風土記  
ヲ作レル時ハ國中五十九郷ニ各其市場ヲ記セルナルハ風土記鉄テ  
ヨリ余郷ノ市場ハモレナリ今ヨリ市場ハ夕々牛ヲ賣買メ  
ヲ商ハス故ニ里中多ク牛僧也

米地 風土記曰多ク俗竹良村大石等ヲ出ス公穀五十九假粟二十九  
水谷神社 延喜式曰水谷神社名神大社ト今奥米地村ニイラス  
大藪 寛文年中小出公其弟内記ヲ分封セラレテ地ヲ采邑トス  
翰カ少年ノ時テ地ニ遊テ其後山ヲ登臨ス半腹ニテ石窟アリ廣  
一丈余石ヲ置テコレヲ造ルテ行ヌ數十歩ニメ殊ニ廣キ処アリ  
從遊モ向テ田ニ何ノ為ニシテ設レテ予其説ヲリス後名物六

帖ヲ讀ム其中丹州古塚ノ事アリ右都ヲ開ケ珠衣ノ人アリ土人其珠  
ヲ取テ腰佩<sup>ミツゲ</sup>壓子トスコレ上古尊貴ノ人ヲ葬ル珠瑞玉押トモ  
ナリトコノ辺ニモ塚ヲ發テ壓子ノコトキモノヲエント世ニイヒ傳フモシ  
実ニコレアラハ是ラン石窟モ上古尊者ノ陵ナラン貝原先生ハ上  
古穴居ノ地ナリトイハソレハ真ノ石窟ニテ俗ニ墓穴トイフモノ  
ナリ其説ニテ思ヒ合スレバコレ石窟ノ廣サモ陵墓ノ類ニアラサ  
レト穴居ノ時ニシテハ金ノ器物ナトアルハヤヤニイカサニモ大ナル穴  
居ノ石窟ニシテ小ナル陵墓ナラン筑前ニハ処々ニアラマアリトシ  
此國ニモ多クキユ今口ハ予カ親見セシテアケテユニ記スノミ  
千光寺願礼ノ九番也



輕部郷

太田文曰悲田院領輕部庄五拾六町九反百也拾步

大沙汰 地頭石岡兵衛治郎入道

鎌倉以前ニ輕部六郎俊通ト云モノ此郷ノ公文トナリ其孫ノ柄津三郎光家ト云モノモ同ク公文トナリ其下部系図見

村数士

小城 上 廣谷 畑 稻津 上野 土所 浅野

伊豆 左近山 玉見

浅野 凡土記曰虫食有公穀六十九假粟二十七九

伊豆 凡土記曰柿栗秘梅寺佳粟多し公穀百廿九假粟三十九

左近山 風土記曰葦葭良材脩竹等ヲ出ス公穀八十九假粟三十九

同山 凡土記曰ラホシ良材ヲ出ス禽獸繁多也以下出食此郷

ノ市場ハ廣谷村也新宮満福寺煩礼ノ七番也八番ニ郷中ノ上野村神光寺也皆下部系図ニ輕部村アリ今何レ地ナラシ

ラス

三方郷

太田文曰三方紙土三十三町八反二百六十步 地頭源左衛門太郎入道

日下部系図ニ三方江大夫清奉ト云モアリ此地ノ下司ナルハ山名時ニ三方左馬助トモモノユニナリ其苗裔ナルハ

村数六

新津 宮垣 樽見 上山 中村 笈梅

大屋郷

太田吞尊勝寺領大屋庄四町五反三百步 領家右大

將家 預所越中都作郡下司三方権守清行

村數十六

加保 市場 糸原 山路 笠谷 大杉 藏垣 笈

中間 横行 若杉 宮木 門野 須西 和田 明延

加保 天正五年豊大岡朝未郡征伐テ又播磨ニ皈リ玉テ其

間藤堂與右衛門モ美郡代一揆ヲ退治セシムルハ代ハ小

代大將ヲ大將トシ上月宮安ナト云ノ黨凡十二人立籠リ要

害ヲ構ヘテ防キ戦ケルハ藤堂勢ヒツキ一騎ニテ大屋ニ加保村  
ニ至テ枋尾加賀守并ニ嫡子源左衛門ヲ頼ミテ兩三年ヲ  
送ラレヨシヲ聞テ小代一揆氏天瀧ヲ越テ責素ル藤堂モ藏  
垣村ニ出張シテ防戦セラル一揆氏ハ横行山ニ引籠、隙ヲ伺テ  
出テ戦フ藏垣笈兩村ニ合戦數日ヲ送ル其間ニ瓜原新左衛  
門ト云者百余人ヲ枋尾カ宅ヲ圍ム源左衛門其臣刈鉾源兵  
衛居相肥前守其子新兵衛次男孫作ト防戦シツイ瓜原  
ヲ討取ル其後枋尾源左衛門刈鉾源兵衛ト藤堂ニ役テ夜  
討ニ入ル揆氏驚駭キ防キアサル外ヲ一時責ツケツイ天將カ  
モテヲ悉ク討取ル其紛ニ一揆ノ中ヨリ藤堂ノ馬ヲイル其溝落

下セシテ敵臣アテ夕馳集リニテ討取テス源左衛門ニテ見テ寄合  
テ敵ヲ追拂ヒヒカ馬ニ懸堂ヲ乘セテ死テ出テ一生ヲ得一揆誅戮  
ノ跡今ニ藏垣村ノ奥ニテ其妻日大岡播加ヨリ明延山ヲ越テ大  
屋ニ至リ枋尾カ宅ニ腰ヲカケラル枋尾乃河魚ヲ料理シテコレヲ  
スム大岡枋尾カ戦功ヲ賞シ大屋河上ニ於テニ里ノ地ヲ賜フ別ニ  
老父加賀守ニ頭中ヲ賜ヒ源左衛門ニ六甲曹太刀等ヲ賜フ然レ太  
岡ハ一揆ノ余黨ナラレ代谷ニテ聞玉ヒ源左衛門ヲ前導トシ七差  
郡ニ赴キ計策ヲ以テ敵ヲ欺キ悉ク討戮セラルユトヨリ又一揆ノ害ナ  
シ枋尾ハ本姓馬場氏高祖八郎ト稱テ世々丹波ニ住ス大内家ノ  
武臣也其子安藝守外戚ノ姓ヲ冒シテ枋尾ト稱ス其子枋尾左

衛門後ニ加賀守ト云其子源左衛門善次分シ八郎此國ニ移住  
シテヨリ四代ニ當ル藤堂公枋尾カ一族中召仕フキモノヲ求メ  
ラルレ氏人ナレ藤堂公勢州ニ移リレ後元禄ノ初枋尾カ一族中一人  
仕テ臣トナル本家ハ今ナラ此村ニテリ

大杉大福寺聖觀音頌礼ノ廿六番也

天瀧 筏村ニテ此山ニテ高シ飛流直下三千尺疑ハ是レ銀河ノ  
落九天ノ文白カ云ニ異ナラス故ニムカシ大瀑ト名ツケレトナン小出佐州  
公曾テユニ遊覧シ玉ハリ土人ハコノ瀕ニ不動アリト云テ御瀑ト稱ス  
又明延ノ銀山ニモ久キ年更ナリ此類古書見カレ地理ノ大ナルモノ

ユニニ附録ス

遠屋郷

是今ノ建屋也建遠ト文字似ルニ傳寫ノ誤ニルヲ其マ、  
国字ツケタル也

太田文日尊勝寺領建屋ノ庄四町八反二百七拾步

領家圓滿院宮 下司建屋五郎太夫女子御家人

同寺領同新庄七町二反三百十步 領家備中法眼後快女子

君 地頭石和田又太郎光時御家人

早部系四ノ輕部六郎嫡孫俊村ト云モ建屋下司上ノ鎌倉以前ノ

村数八

大坪 船谷 三谷 森 市場 長野 能座 持河内

圓通寺

納座村ニリ順礼ノ廿五番也又長野村内ニ覺海屋敷ア

リ己其誕生ノ地ナリ國人謬テ宗祇法師ト云宗祇本國紀州ニ

テ俗姓飯尾氏應永廿八年ニ生テ文龜二年八十二歳ニ終リ此國

ノ人ニハアラス

類者郷

太田文日悲田院領八木庄六十町廿步 領家方丈沙汰地頭

又三郎入道覺田御家人

村数十一 今分レテ兩庄トス

高柳 市場 今瀧 三宅 大谷 萬久里

右六村順田庄ト云

尾崎 関宮 吉井 中瀬 出合

右五村羽山庄ト云

八木古城 市場ノ後山有上古平氏ノ人ヨリ居ト云傳ル此所ノ公卒トナルレ鐘倉時表米ノ遠孫日下部氏朝倉高清水道平氏ヲ亡シテ其次男ヲエニラシヨリ子孫八木氏ト称ス武家系凶朝倉ト載ル八木家ナリ山名此国ヲ領セヨリ其家臣ナリ国老四人也其時城此山ヲ築テラレリ應仁乱後山名家衰微スヨリ八木氏ハ諸侯ノミテ領地因カレ込ニ及テ四方石ナリトイヒ傳ヘリ天正年中太閤未征レ玉フ其時ハ城主八木但馬守豊信防キテ因州ニ出奔ス太閤ヨリ別所某ヲカル別所ハ赤松入道圓心ノ末族

ナリ天正十年別所氏丹後油良へ移リテ後城主トス延喜

伎村トカケリ茅原寺又方寺ト云順礼ノ廿七番也

今瀧村今瀧寺 八木小佐二郷ノ間ノ山中ニテリ寺ハ順礼ノ廿七番也

ヲ山ニ瀑布平ナリ歌ニ觀音モ阿弥陀モ同レ導引ニ心ヲスノク六ノ瀑ト云モニナリ土人傳ヘテ上古異鳥アリテ山椒ノ實ヲ食ミ此瀑ノ辺ニ落ス其木生長シテ子ヲ結フ氣味辛香ニ他ノ椒ニカハリヨリ処ニ接栽コシ朝倉山椒ノ始ナリト東都儒臣人見友元ニテ賦セシ詩アリ友元野節ナリ鶴ノ號シ又竹洞ト云其詩曰

但馬人湯淺迪菴携芳紅椒一筐贈之語曰此是朝倉之名種也国有今瀧山絶壁千仞飛瀑百流其半岫有一株

之椒辛香超群採之者采籠而下攀枝而摘爾未村々接我呼曰朝倉山椒曝秋湯貯陶壺收之則隔歲猶不減辛香矣余聞之且喜且謝以作一律示之  
朝倉名是今瀧種未寄椒花紅且馨何日倒甌銀漢水重巖浮下玉衡星園中調鼎右丞摘席上和漿屈子醒相約炉談燒豆腐清茶濁酒共閑餅

三宅 貝原氏和事始曰推古天皇十五年每国屯倉置景記此倉諸州置給ヒ始也屯倉ト天子御米多收置倉ナリ紀景今三宅ト村アル其旧址ル是其国々米倉ヲ置テ貧民ノ餓死ヲ救給シタメタルハイトアリカタキマウケニヨソ

琴引山 三宅村向ナリ南ハ大屋郷宮垣村ニ當ル琴引坂トテ往來ノ道ナリ

夫木集

讀人シラス

サキニヨソ 琴引山ト人ハイワヌ調テモナク蟬ノ聲哉

六帖和歌

イツカラカ調ノ音ノタヘニケン 琴引山ノ聲ノキコヘス

中瀬金山 天正元年八木但馬守豊信領知時中瀬大日寺ノ傍ニ沙金アリ因州ノモ来リテ是ヲ見テ其山ニ金アル古又シリ其條ヲ尋テココヲホル翌年掘出ス金穴ヲ石間風ト云ヒ金ヲ得ル始也モト金石ヲアト云々此国ニテハ金穴ヲアト云故ニコノ名アリ

同三年別ニ又一穴ヲホル金ノ出ル甚多ク一日ニ元兩ノ運上ス故  
七兩金穴ト同五年太閤此郡ヲ伐シテ八木但馬守防キエス城ヲ  
棄テ出奔ス太閤ヨリ別所某ヲ八木城ニ置テユノ奉行トス同十  
年別所ヲ丹後へ移セル是ヨリ生野ニ属ス同年ノ秋吉井村内  
百六拾八九升一合ノ地ヲ分テ吏民ノ宅地トス以後金山町ト云奉行  
伊藤石見守同十二年百合山ヲ掘ル慶長五年京都ヨリ間宮新左  
衛門ヲ生野ニ置テ是ヲ司ム時須田羽山兩庄ヲ隸トス以來ヲ地ハ  
冬小吏ノミ有テ諸務ヲ司ル故ニ奉行寺生野ノ下ニ記ス

浅間郷

村數十二

上小田 下小田 伊佐 坂本 大江 岩崎 浅間  
宿南 青山 深谷 赤崎 浅倉  
今ハ宿南庄ト云然レ弘安比數箇庄ニ分テ名ハ郷ラスニ宿南庄ト云ハ  
イハレナキ也

大惠<sup>ヲ子エ</sup> 太田文曰大惠本郷五町六反百十歩 地頭肥塚七郎入道行西  
今ハ大江ト云テ一村也

岩崎村太田文曰岩崎村四町二百拾歩 地頭肥塚三郎入道蓮心  
与垣村 太田文曰与垣村四町一反百八歩

今ハ坂本秋村也俗ニ要害ト云坂本ニ古城アリ其時コニ要害  
ヲ設ケシナト語り傳ハル古書見サル人ノ臆説ナリ

小田 太田文曰小田村又地頭女子等

二反 奈良弥二郎妻女

一反 伊佐十郎妻女

一反 箕田女子子分

伊佐ノ地ハ中古荒蕪シテ居民ナシ小出備列公時臣カ祖父壻  
闢シテ新田トシ新者来リ集ツイニ一村トナル其始延宝三年  
ヨリ今年ニ至テ七十八年ナリ往古ハ小田村ニ属セリト見ヘ然レ  
大惠最古キナニヤ今ニ至ラスヘテ此辺ヲ大惠ノ保内ト称ス

宿南 太田文曰嵯峨二尊院領宿南庄十三町百四拾步

地頭八木左衛門太郎重直

此村ニ館ト云壺ノ内ト云処アリカシ地頭ノ宅地ナルニ山名時宿  
南左京ト云モノ居タルヨシ後山ニ古城アリ土人ハ比丘尼城ト云

浅间 太田文曰成勝寺領浅间寺十八町六十步

領家実栄律師 地頭関東御分 給主仁夫彦仁即時隆

此村東西ノ二落ナリ西ハ浅间寺分東ハ地頭分ナリ浅间寺ハ  
昔六坊有其名棟札ナリ山名民政ノ課役免除ノ状今ニ  
傳フ元龜二年入木但馬守本尊華師日光月光三神等  
修理ヲ加フ天正二年本堂建立天正八年太閤寺領ヲ没収  
シテ今ノ寺ハ元祿十五年ニ建立ス古ノ六坊ノ内本願地  
藏院ナリト云地頭ノ地ハ應仁以來國家ノ命ニ從ハス天正年



中太閤山田村ヨリ水生城ニ赴キ玉テ時浅人君、險路ヲ避テ  
コヲ徑テテ城主佐々木近江守出テ降ス古城ハ東ノ前也  
トアリ

浅間神社西山ニアリ葛大明神ト云

赤崎 太田文曰赤崎庄十七町四反セ步 領家ニ奈殿下司  
御家人跡於下司職者筑後三郎兵衛入道女子与本司今  
井四郎入道道蓮相論云々

進美寺 太田文曰梶本中堂領進美寺廿二町五反

領家聖憲法師 地頭河南木三郎入道蓮忍

此山養父氣多ノ境ニアリ故太田文ニ氣多郡ニ入ル人皇四十二代

文武天皇慶雲二年行基菩薩開基ス聖武皇帝天平戊  
寅ノ歲敕シテ十三間四面ノ伽藍并ニ四十二坊別院ヲ建立アル  
寺領ハ赤崎岩中日置三村ノ中ニ於テ宛行ハレ又右和  
保等岩出野ニケ所ニテ燈油田ヲ賜フ鳥羽院仁平元年  
八月十七日御願寺トシテ大般若經六百軸ヲ寄附シテ後嵯峨  
山ニ代同ク御願寺トシテ寺領二百畝ヲ増シ賜フ建久八年鎌倉  
殿五輪宝塔八万四千基ヲ造立シ内五百基ヲ但馬國ニ充ラル  
三百基ハ當寺ニ立テ二百基ハ國中ノ大名 仰セテ造ラセラル  
是平家ノ一門滅亡ノ冥福ヲ修セシカ為ナリコヨリ毎年御  
祈禱ノ卷教ヲ鎌倉ニ奉リ其請文并國中ノ大名等當山ニ

狼藉ヲ致スヘカサル御教書等教通アリ後小松院至徳年中  
温泉寺清禪和尚ト云人國中三頓礼三十三所ノ札処ヲ定メ  
之些寺ヲ以テ第一番トス然氏建武以來國中太ニ乱レ當山  
ニ城ヲ植テ要害ノ地トス是ヨリ佛更懈怠テ僧坊モ多ク絶又  
遠佐郷

村數十一分ヲ兩庄トス

網場 舞狂 朝倉 米里 国木

右朝倉庄ト云

八鹿 九鹿 小佐 石原 火畑

右小佐庄ト云

朝倉 風土記曰多ク梧桐蜀椒キリサニヤウヲ出ス公穀百七拾九假粟芋丸

太和本草曰朝倉山椒八但馬ノ朝倉ノ里ヲ初トス其後丹波

ニモ植テ香氣烈ケシ常ノ山椒ニ葉モカハリハリヌクナシ

表米ノ苗裔日下部氏高清算道此地ニ居住セシヨリ子孫氏

トセリコレ朝倉ノ始祖也後ニ越前ニ移テ其国ヲ領ス北越軍譚

ニ世ニ朝來郡ニ住スト書ニ他国傳因ニ郡ヲアナル也

朝倉山風土記曰諸鳥多樹木少カラス蜀椒多シ其辛更他ニ異ナリ

国木 風土記曰多麻桑蠶糸布等ヲ出ス公穀百二九假粟四九

小山 風土記曰已下虫食ニテ計

八鹿 延喜式曰屋岡神社

此枝村大森ト云外赤松左兵衛尉ノ墓有其身ハ因幡ニテ  
終ラレシカト生前ニ仁政多カリケレハ封内ノ民コレヲ追慕シテ  
築テ墓トシ歲時ニ祭祀セリトナシ其碑文曰衆林院殿可翁  
松雲居士當国竹田城主赤松左兵衛尉廣秀乃慶長五年  
甲申十月廿八日卒行年二十三歳

按ニ惺窩文集六左兵衛佐廣通トアリ年モ二十九ナルヨシ追

悼歌ニ字ニテ道心ハ惑ハシテ一年タラス齡多シトイヘリ四十二ノ

一トハスノ意ナルハ惺窩公赤松ノ師ナハヤウノ古ニ謬アルカラス

小<sup>ア</sup>佐<sup>サ</sup> 枝村四<sup>ア</sup>アリ馬瀨 石塔 中村 今井

此石塔ヲ今ハ小<sup>ア</sup>佐<sup>サ</sup>ト稱ス昔宗祇法師妙見ヨリ飯サニ爰ニ宿リテ

帆カケ舟ヲサテ月見今宵哉 ト吟セラレシカハ夫ノ老婆ニテ

キテ帆カケ舟ヲハラサテトイフニテナシユク舟ヲトナトノタハストイヒ

トト処ノ語リ傳ル也世記モモ有リヤ未考

妙見山國華万葉記曰火畠村ニ有リ社領世三石別當真言帝釋寺  
當社御神八里ノ神北辰ナリト

此社始<sup>リ</sup>年紀定カラス世ハ敏達天皇ノ御宇トイヒ傳<sup>リ</sup>

一説六内家ニテ妙見ヲ尊崇シヌハ當国ノ彼家ノ墓下

リシ時ヨリ始<sup>リ</sup>トイヒサト此山ニ文永曆應ノ比ヨリ寄附

状アルハ内家ノ盛ナリシ時ヨリハ遙サキニ開ケナリ戦国ノ

間家ノ祈願トシテ寄附セル社領數ララス天正五年太閤

七美郡ニ至リ小代一揆ヲ退治アリ其帰ルサニ此山ニ至リ社領  
ヲ没收シ玉ヲ憲廟ノ時ニ夕社領ニ石ヲ賜テ今ニ傳ヘリ山ヲ  
石原山ト云養父氣多七美三郡ノ境ニアリ昔宗祇法師當  
山ニ詣テ 妙見山面白松雪トカレシヨシイヒ傳下記セル  
モヲ見ス正徳年中別當潜龍勝景ハツ撰テ詩ヲ賦又東  
都之諸大儒林学士父子室師礼物茂御兄弟等十六人詩ヲ請  
テ一軸トシ寺ニ藏ム今只世ニ刊行スルモ僅ニ入ヲ取テユニ載ス

徂來詩集ニ曰石原山八景

山東沃野

石原山後万家煙石原山前綠疇連為縁養父嘗名郡孝

悌力田似漢年

箕泉清流

瀟々箕泉抱石流一瓢注比桂清秋因疑巢父牽牛地還属  
扶桑但馬州

櫻溪遠花

總說山陰晋代彰櫻溪楔事自洪荒假饒會秘誇觴咏能有  
花萬樹香

杉間秋月

山因帝釈似須弥半夜琳空月上時万樹風杉遮不冬重  
葉々蛛網垂

嵐峯紅葉

夜々嵐峯山嵐成峯錦樹逾明何人裁作袈裟著為  
謝諸天太有情

四山晴雪

溪壑雪霽晝圖閑謂是山陰道上回直置應酬無復暇恰如  
無真夜舟未

霧海朝暾

浩々雲波訝陸沈偏聽萬籟似潮音須臾日照千山出守在  
蓬萊第幾峯

北溟眺望

蹴空遠浪散天華帝釈臺頭眺望餘十丈丹梯何所處倚身

北斗問仙槎

按茂卿名双松別祖米ト号ス俗名菽生惣右衛門郡山之記室也  
停雲集曰妙見山八景山在祖列南國華

山東沃野

畝畝縱橫万頃連溝通水利引甘泉壤肥禹甸响々隰賦比不  
雍州上々田蠶繭早成桑拓地鳥鳶兼飽稻梁夫白頭村叟  
齡垂百猶說未逢荒政年

櫻溪遠花

幽谿花合幾重々一色春光曲々同素艷不寒二月雪清香  
欲度半山夙暮雲鳥過畫屏裏朝日負懸明鏡中遠向

仙源應有路漁舟欲問短篷翁

箕泉清流

寒水一潭清若霜石間脉々下雲岡何知未汎能通稱尤愛源  
流堪泛觴小鼎分來僧名熟一瓶汲去佛花香不須卓錫  
迸泉出長漱瓊瑤傍道場

杉間秋月

金氣凜々古樹林夜闌月色故未臨明輝靜照巢禽夢幽  
境時聞木客吟拂枝頭琴奏爽露疑葉底玉華深山僧偶向  
清陰坐悟了無名真理心

嵐峰紅葉

林壑氣高霜正飛遙吟楓樹爛生輝織成疑是天孫錦染  
出應裁山鬼衣夕日半啣朱閣簷朝峰斜捲絳紗圍秋鴻  
似春鴻度宛向花雲紅處飛

四山晴雪

天邊積素徹雲衢璨々清輝開畫圖有嶺盡如披白練何峰  
不復疊明珠光眩日色花經眼氣逼風威栗滿層謾道  
香炉峰頂雪若斯銀界玉山無

北溟眺望

寺臨無地出塵寰海色遙來妙見山積水遠圍三嶋外怒濤  
高蹴九霄間樓高壓氣青天濕雲斷鵬程白日間誰得

乘槎凌碧落超然遙犯斗牛還

按南景春字國華北海ト号ス俗稱南部權藏卒  
民部大輔記室也

法華靈場記ヲ考ル京都具足山妙覺寺番神堂ニ往  
若但馬國養父郡ニアリシヲ天文十八年移サレトアリ此郡ニ  
テ何ノ寺ナリシ未考 太田文中ニモ此類多シ今具シテ  
畧シテ妄ニ議セス



